

第1回枕崎市地域公共交通活性化協議会 議事概要

令和4年6月23日(木) 14時00分

Camping Office osoto Makurazaki

【出席者】

委員31名中24名の出席あり

【内容】

1 開会

2 会長あいさつ

枕崎市長よりあいさつ

3 地域公共交通を取り巻く最近の情勢について

九州運輸局 鹿児島運輸支局 首席運輸企画専門官の委員より説明

4 協議事項

(1) 新委員の選任及び委員の交代について

選任:鹿児島県総合政策部交通政策課(鉄道担当職員)及び枕崎市水産商工課長

交代:各社異動及び公民館関係役員交代に伴う委員の交代

質疑なし、承認

(2) 枕崎市地域公共交通計画(案)について

(事務局) 資料1P20の駅別乗降客数と1便あたりの乗降客数について、資料:交通事業者資料となっているが、乗降客単のデータは国土交通省からのものである。

このため、出典元に国土交通省の文言を追加したい。

⇒(委員)承認

(3) 令和3年度事業報告及び決算について

質疑なし、承認

(4) 令和4年度事業計画及び予算(案)について

(事務局) 19の施策展開のロードマップを示している。19の施策をPDCAサイクルで毎年度ローリングしていく。

今年度の重要施策として、施策11の公共交通空白地域・不便地域における新

たな移動サービスの提供について、予約型乗合タクシーの実証運行、翌年度以降の実施で取り組んでいきたい。

また、施策 10 の鉄道と路線バスの一体的利用の促進に向けて、まずは、鉄道と路線バスをあわせた共通時刻表を作成し、周知を図るとしている。現在、鉄道とバスの総合時刻表及び枕崎バス停初の桜山・金山方面行時刻表のサンプルを作成している。どのようにしたら分かりやすいか、広く周知できるのかについて力を借りていきたい。

⇒（委員）鉄道とバスのサンプルをパッと見たときに、よく分からない。利用者が見たときに分かりやすいものが良い。

（事務局）おっしゃるとおり、分かりにくい部分があるので、改善していくべきだと思う。アドバイスをいただきながら改善していきたい。

⇒（委員）令和 3 年度は国からの補助金が出ているが、今回の予約型乗合タクシーの実証実験に対して国からの補助金はあるのか。

（事務局）実証運行は補助金の対象ではない。実際に予約型乗合タクシーを運行する際は運営費に対する補助金はある。

⇒（委員）南さつま市の例では、予約型乗合タクシーとは、乗りたい際は事前に連絡をして、同じ方面に用事のある知らない人と一緒に乗って行くサービス。

⇒（委員）予約は視覚障害者、聴覚障害者はどのように予約をすればよいのか。

⇒（委員）ある程度話せる、目が見える、少し耳が遠いようであれば予約できるが…。メールで予約を行うこともできる。

（事務局）この質問は、事務局も課題の一つであると感じている。どういった方法があるのか、勉強や検討をしていく。

(5) 路線バスの運行見直しについて

（事務局）新型コロナウイルスによって、交通事業者が大きな影響を受けている。本市でも東大川～ウェルフェア九州病院～枕崎の路線で、減便の要望をうけている。この路線は国と県から補助金が出ているが、事業者の自己負担が出ている。

減便については、乗車率の低い便となっている。東大川発の平日が 6 → 3 便へ、土日が 3 → 1 便へ。枕崎発の平日が 5 → 3 便、土日が 2 → 1 便へ。時刻については、南九州市、事業者と協議の上変更の可能性もある。

減便後も赤字が出てしまうが、国、県の補助金がなくなり、本市と南九州市で赤字を補填する形になる。

質疑なし、承認（減便を受け入れる）

(6) その他

(委員) 路線バスの見直しについて。国、県からの補助金をもらっているが、満額補填ではなく、半額以上は事業者が負担している。バス事業者は便数が減っても路線は維持したいと考えている。

(委員) 冒頭、会長より公共交通の利用では歩くことが大切との話があったが、歩くには木の陰が必要になってくると思う。バス停やタクシー乗り場に植樹するのはどうか。デジタルサイネージ等もやりながら、アナログ面のインパクトを狙うのもよいと思う。電車、バスでの行き帰りを次のバス停までの道を木で繋ぐということを考えた。

⇒ (委員) 植樹に関して、広葉樹は成長が早く、管理が難しい。

⇒ (委員) 宮崎でグリーンスローモビリティに乗った。100円で乗れる。観光客が珍しがって乗るが、定期的に利用する人はいない。窓やエアコンもついていない、屋根のあるトロッコのような乗り物であった。

5 その他

(事務局) 事務連絡

6 閉会